


団体名	富山CAP	活動タイトル	子どもの安心・自信・自由の権利を伝える人材育成とネットワーク	
<b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b>		<b>■活動風景</b>		
●望ましい社会状況(ビジョン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAPプログラムが公衆衛生の予防教育プログラムとして理解される。</li> <li>・子どもが生きていくために大切な3つの権利「安心・自信・自由」の人権を一人一人が持った存在であるということが理解される。</li> <li>・子どもが「自分は大切な人」と思える関わりのできる大人を増やす。</li> <li>・子どもが困った時、どうしていい分からない時に話を聞いてもらい、安心を体験する。</li> <li>・安心感とエンパワメントされた体験が継続してできる環境を作る。</li> </ul>	<p>2020年 11月15日 子どもの権利条約フォーラム 2020inなんと CAP分科会</p>		
●団体の社会的役割(ミッション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を子どもが安心して、自信をもって、自由な気持ちで生きる社会にする。</li> <li>・子どもの周りの大人（教職員、保護者、地域）の人権意識を育み、信頼できる大人を増やす。</li> <li>・逆境体験を早期に発見し、子どもの話を聴けるスペシャリストの養成講座を開催する。</li> <li>・子どもの人権とエンパワメントを大切にすネットワークを形成する</li> <li>・すべての子ども一人一人に安心・自信・自由の権利（人権）があることを伝える。</li> <li>・子ども、若者が安心して自信を持って自由な気持ちで生きる社会を作る</li> </ul>			
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの声に耳を傾け、力になってくれるおとなを増やす。</li> <li>・公開おとなワークショップの実施で活動周知、プログラムの理解と活動の協力を求める。</li> <li>・地域で、継続的にCAPプログラムのワークショップができる協力体制を作る。</li> <li>・CAPスペシャリスト養成講座を富山で開催する。</li> <li>・フォローアップと正しい知識の習得の機会を作り、スキルアップを図る。</li> <li>・CAPワークショップの実施による対価の取得</li> <li>・市町村からの委託費、県、財団からの助成金で継続</li> <li>・有識者や団体とのネットワーク形成し、情報を収集し、早期対応、早期対策を図る。</li> </ul>			
<b>■活動報告</b>		<b>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b>		
<p>※ワークショップを文章内でWSと表記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの権利条約づくり」に取り組む自治体を中心に、CAPで地域のおとなに対して子どもへの人権意識を高める動きに協力。</li> <li>・地域のネットワークを介してCAP公開WSを開催。</li> <li>・CAPについて問い合わせをしてきた人を中心にして地域でCAP公開WSを実施。</li> <li>・公開WS→教職員WS→保護者WS→子どもWS→校長会で報告された。</li> <li>・県内の各地で連続開催。CAP活動の周知とWSへの参加、地域から養成講座に申し込みできるチャンスを作れた。</li> <li>・CAPが子どもにも大人にも必要であると理解された。おとなの研修に期待が広がった。</li> <li>・ネットワーク形成で、CAP公開WSへの参加や養成講座の参加につながった。</li> <li>・新スペシャリストが誕生してグループが活性化。それぞれの専門性や人脈を生かして自治体の研修や教育機関の研修に足がかりが出来た。</li> <li>・子どもの話を聴けるおとなを増やす地域のネットワークが少しずつできた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体（南砺市）で2度の公開WSが実現できた。</li> <li>・自治体の「子どもの権利条約づくり」の動きとCAPの子ども「安心・自信・自由の権利」を伝えることで、地域のおとなの子どもへのまなざしを変えるモデル的な動きが実現してきた。</li> <li>・目標の公開WSは達成。継続的なWSの実施で、県内各地からの養成講座を受講するチャンスを作り出すことが出来た。また、新たな地域からのWSの依頼があった。</li> <li>・2月に開催した公開WSから、3月の教職員→11月の保護者→11月の子どもWSにつながり、12月の校長会で体験が語られ、タイミングよくWSが実現できた。</li> <li>・WSの機会が増え、コロナ禍でも疲弊することなく、虐待・DV・性暴力など社会での問題に、一層、CAPの必要性を感じながら練習やWSに参加できた。</li> <li>・養成講座のFU（フォローアップ）参加で、グループ内メンバーが練習やWSに積極的に参加した。</li> <li>・自治体や市議会の子どもの権利条約に関心のある人脈を作ることが出来てきた。</li> <li>・新メンバーが加わり、地域のネットワークに発展することが期待できる。</li> </ul>		
<b>■事業を通じて得られたノウハウ</b>		<b>■望ましい社会状況を達成するための課題</b>		<b>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAP公開WSの問い合わせしてきた人に合わせて公開WSを開催する。</li> <li>・公開WSの連続開催により途切れの無い受講のチャンスを作る。周知するに協力が得れ、リーダーやWSへの紹介につながる。</li> <li>・SC・SSWなど専門職の人脈から、地域の教育関係や自治体に理解を求める。</li> <li>・応援してくれる人の肩書や名前をスペシャリスト募集チラシに載せる。</li> <li>・地域のNPOと協力して公開WSを実施。自治体の後援を得易い。</li> <li>・自治体のニーズに応えるおとなWSの開催。</li> <li>・おとな社会の中にあるDV、ハラスメントなどの防止の研修に活用できる。</li> <li>・子どもの権利条約づくりとの動きのある自治体で地域の意識向上に協力できる。</li> <li>・CAPのWSで子どもを真ん中にした連携を考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだCAPを知らない人が多い。どの地域にも子どもへの人権意識や子どもの声に耳を傾けることができる大人を増やす為に、賛同してもらえKeyパーソンやスペシャリストを増やすこと。</li> <li>・公開WSや保護者WSへの参加者が少ない。CAPを知る機会をどう作り出していくかが課題。</li> <li>・CAPプログラムで（安心・自信・自由の権利、エンパワメント、出来る事を考えること）に気づいた大人がCAPを地域に広げたいと思っても、孤立し疲弊してしまう（教育関係）。</li> <li>・よかったという気持ちも、時が経てば、薄れていく。意識を高く持ち続け、気持ちを維持して次の行動に結びつけること。</li> <li>・相談できる場所があっても、相談に踏み出せない問題を抱えているおとなに対しても、CAPを届けること。</li> </ul>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>地域に子どもの話を聴けるおとなを増やすために、CAPの「安心・自信・自由の権利」を伝えるWSを15市町村のうち8市で実施</p> <p><b>を達成しました。</b></p> <p>受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの「安心・自信・自由の権利」を知り、子どもの見方が変わった。</li> <li>・エンパワメントの大切さを知った。</li> <li>・おとなの子どもへの関わり方を考える。子どもの話を聴けるおとなになりたい。</li> <li>・虐待の連鎖を防ぐ分岐点になりたい。・話の聴き方は大人にも通じる。</li> </ul>